

# 図書館だより

1990. 10. 1

第12巻 3号

通巻115号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

ことの葉

彩時記

## 鬼と紅葉

菱川 善夫

30歳を過ぎて心に鬼の一匹も飼えぬ女など、たいして魅力のあるものではない。ただし〈鬼〉とは、あらゆるヒステリーの類を指していうのではなく、美と情熱の別名であることをことわっておく必要があるだろう。人を愛する心、美に感動する心、反俗の志が、常識の枠を踏みこえて激しい力を発揮するとき、鬼となる。

この樹登らば鬼女となるべし紅葉

みつはしたかじよ  
三橋鷹女

『魚の鱗』(昭16)の一句。鷹女も鬼を飼っていた一人だ。空気も染めあげるばかりに紅く燃えている「夕紅葉」は、さながら燃えたつ生命の樹といってよい。それを下から見あげるだけではみだされず、鬼となってかけのぼろうというのだ。この純粹衝動には、狂気に近いものが含まれている。

たしかに、紅葉は人を狂おしくさせる。華麗なだけでなく、そこに生命の極限の美と、同時にほろびの予感がたたえられているからだろう。だからこの美を自分のものにするには、人生の経験と覚悟が必要となる。

その覚悟とは、世俗の名声にとらわれず、おのれ一個の内面の力に信をおく覚悟だといってよい。こういう覚悟は、いまや男よりも女のほうに強くあらわれるようになった。

こうえふ  
紅葉のあかきに耐へず狂ひゆく風も  
地の面も在りしこの身も  
今生を語るにはやき齡もて見しくれ

なるに哭すところは

藤井常世

桜も魔性をたたえているけれど、〈狂〉をさそうのは紅葉のほうである。日本人に古くから愛された紅葉が、現代になって〈鬼〉や〈狂〉と結びついたことを、私はおろそかにすべきことではないと思っている。

今年77歳でなくなった前川佐美雄にも、凄い紅葉の歌がある。

飛び込めばはや渦巻きて散りしきる  
紅葉のなかの来し方のゆめ

前川佐美雄

『大和』(昭16)におさめられた一首。紅葉のなかに飛びこんで、どんらんに美と夢をむさぼる豪奢な精神——この狂をもって、佐美雄はファシズムと対決した。佐美雄も、みごとに〈鬼〉を生き抜いた歌人だった。

(ひしかわ よしお 教養部教授)



上村松園画  
花がたみ





# ハロー・ジャパン ③

## 軍隊の効用—アメリカの場合は… Richard D. Kizziar

After graduating from high school, I needed a break from studies. I could not go on vacation ; I had no money. Since I wanted something that would look good on my resume, I joined the navy. I was thereby hitting several birds with one stone.

First, I wanted to grow-up, quickly. I was seventeen years old and very naive. However, I wanted to grow-up safely. I wanted to have adventure, but I also wanted refuge from adventure. Plus, I wanted to travel. In recruit training, the petty officer in charge of our group asked us all why we had joined the navy. I wrote, to experience life and see the world. Both true. But this man asked what my 'real' reasons were. I did not protest ; I knew then he was without imagination. I replied that I sought to learn a trade. This was of course smoke-substantial in appearance, but not in reality.

There was nevertheless another reason. I had no intention of staying in the military forever. After getting out, I wanted to go to university and thus take advantage of the G. I. Bill. Here 'G. I.' refers to soldiers, and 'bill' refers to the law, the enabling legislation. The G. I. Bill paid ex-service people to go to school. Therefore, those without much money could receive help to continue their education. This meant that military service really was a way to improve yourself. They began to get more ambitious recruits.

After having served in the navy for 40 months, I was eligible to receive government assistance for that same length of time. I got this help for more than four years of education. It finally ran out during my first year of graduate school. It was not a great deal of money, but added to my part-time jobs (in the library), it proved enough to keep me in school. (R. D. キザー 教養部講師)

### ♥あなたを進歩・向上させてくれる一つの方法♥

高校を卒業する。17歳。我ながらナイーブで、世間知らずだと思う。早く一人前になりたい。休暇が欲しい。お金はない。冒険もしたい。でも生命の危険があるのは困るな～あ。旅行もしたいし……

そこで海軍に入隊した。履歴書に書く時カッコいいもんね。希望はほぼ満たされたし、退役したら入隊していたのと同じ期間政府の補助金がもらえる。

キザー先生はこの補助金と図書館のアルバイトで大学院まで卒業したのですね。

## 新着図書 — 経済

基本・経済学事典 経営実務研究会編著/入門経済学 嶋村紘輝著/経済学説史のモデル分析 駄田井正著/アイロニーの効用 R. P. ウルフ著/応用ミクロ経済学 伊藤元重編/ミクロ経済学講義 根岸隆著/消費需要の実証分析 牧厚志著/現代日本経済 小宮隆太郎著/現代中国経済 小宮隆太郎著/イギリス産業革命地図 J. ラングトン編/ニクソン・ショックからプラザ合意まで 浜矩子著/国際経済学 岩田一政著/基本・経営学事典 経営実務研究会編/日本の企業 今井賢一編/上級管理会計 R. S. キャプラン著/Q&A 外国為替 100の常識 日本経済新聞社編/図解 所得税がわかる本 右山昌一郎著/戦後日本地方財政史 吉岡健次郎著/労働経済学 大橋勇雄著/戦後日本の土地問題 大泉英次編著/家庭経済学 伊藤セツ著/都市の地価変動 杉村暢二著/会計学原理 濱田弘作著/マーケティング概論 幾石致夫著/企業会計法入門 岸田雅雄著



# 海外研修での思い出

浦上 忍

今夏、日本私立大学協会主催による第53次海外研修団の一員として、イギリス・ベルギー・イタリア・スイス・西ドイツ・ルクセンブルク・フランスの7カ国を訪問することができた。研修目的はヨーロッパの文化と歴史、大学教育の現状等を見学し、理解を深める事であった。期間は、7月30日より8月18日迄の20日間であった。この目的を、効果的に達成する為、7月30日、午後より私学会館において、事前研修等が実施され、短時間ではあったが、大変、密度の高い国内研修であった。研修後、懇親夕食会、そして、9時30分、36名の参加メンバー共々、真夏の夜の成田空港を出発した。私にとって、初めて眼にした外国の大地は、アラスカのアンカレッジだった。凍りついた白一色の眺望を想像していただけに、緑豊かな風景は意外であり、「百聞は一見に如かず」を、体験した。そして、再び離陸し、英国航空BA6便機下一面に広がる海水の青いシマ模様と、地軸の最北を通過する感動を禁じ得なかった。

ロンドン郊外ヒースロー空港に、ヨーロッパでの第1歩を印した。

＝ヨーロッパの印象とポンペイの大遺跡＝

ヨーロッパ各国を巡り、各々の国の美しい自然や歴史を見て参りましたが、やはり石造りの伝統ある街並み、そして寺院や遺跡・美術館・博物館等、偉大なる文明と芸術の遺跡を眼のあたりにして、この研修の目的である各国の歴史の一端を垣間見る事ができた。又、この時期は、丁度、夏のバカンスシーズンで、各大学を訪問して、教職員・学生は、殆んど見かける事はできなかった。町には市民が少なく、見かけるのは日本人観光客ばかりだった。



りだった。  
8月10日、スイスのジュネーブにある国連欧州本部を訪問した。同本部は、経済・軍縮・人権

に関することを取扱い、現在、国連に加盟している国は159カ国、全世界の人口の98%にあたる。国連未加盟は9カ国のみである。年間、約6,000件の会議が行われるそうです。会議は、同時通訳で、英語・仏語・スペイン語・中国語・ロシア語・アラビア語が、同通訳の公用語となっているそうです。経済大国の日本語は公用語として通用しないとのことだった。

私が、特に感動した都市は、ポンペイである。  
＝ポンペイの大遺跡について＝

ローマから太陽道路を一路南下し、ナポリ・ポンペイに向かった。この街は、紀元79年、8月24日昼、ヴェスヴィオ山の噴火によって埋没した都市である。この街にあるナポリ国立考古学博物館で、埋没都市から発掘された芸術品や、一般生活用品等を見学してきた。各国とも、記録的な暑さで、ポンペイもその日は40度近い暑さであったが、発掘された品々を見てみると、暑さも気にならなかった。この噴火で、約2万人が地球から消えさられたそうです。

(うらかみ しのぶ 図書館事務長)

## 法律 — 新着図書

暮しの法律相談 HOME LAWYER 日本弁護士連合会監修／法学の基礎 寺澤一編／行政学の基礎 概念 西尾勝著／明治国家形成期の外政と内政 永井秀夫著／現代の憲法理論 憲法理論研究会編／HAND BOOK 憲法 阿部照哉編／日本国憲法論 吉田善明著／現代の民法 中川淳編／民法(財産法) 25講 椿寿夫著／製造物責任の理論と法解釈 平野裕之著／現代家族法の諸問題 有地亨編／会社法要説 田邊光政著／手形法・小切手法講義 稲田俊信著／約束手形法入門 河本一郎著／刑法總論 坂本武志著／結果的加重犯論 丸山雅夫著／客観的未遂論の基本構造 宗岡嗣郎著／刑法各論 坂本武志著／明治立憲制と司法官 楠精一郎著／民事訴訟 小熊忠一著／刑事訴訟法基本判例解説 渥美東洋編／共犯者の自白 小早川義則著／消費者保護の法律相談 木宮高彦編著／入門国際人権法 久保田洋著／国際取引法要説 岩崎一生著





## 東洋文庫のすすめ (三)

小野 誠 二

今回は一転、日本の書『往生要集——日本浄土教の夜明け——』（石田端磨訳、全二冊）に眼を向けてみよう。

副題どおり日本浄土思想の出発点とみなされている日本仏教の優れた古典であるこの書は、平安末期に恵心僧都源信により、念仏者の正しい在り方の指導書として書かれたものであり、そのためには現実の苦しみ悩み穢れをもありのまま直視させようとして、まず地獄の精細を極めた描写から始める。すなわち、「第一章 この穢れた世界を厭い離れること（厭離穢土）」は、百三十六もの地獄を眼前に彷彿させる烈しい筆力で綴られている。

誰も地獄に墮ちたくはないが、この地獄活写を読んだら、「わたしのような者は地獄に墮ちても仕方がない」などと軽々しく口から滑らすことなぞできなくなること必定である。「地獄の鬼が熱い鉄の金錠で〔罪人の〕舌を抜くが抜いてしまうとまた生え、生えるとまた抜く」といったことはおろか、すべて、地獄では死んだ途端にまた生きかえってこれまでと同じ万々の苦しみを受けなければならぬ。単に魂の永生を望むことは危いかな、である。地獄で「本当に」死ぬためには「永劫」の年月を要する。死ねないと同じである。（地獄に墮ちる前の現世において「念仏」を唱えるならば浄土へと往生することが可能だとあとで言われるが、すでに地獄に墮ちてしまえばもはや遅しでどうにもならぬようである。）

ではどのような罪過を犯した者が地獄に墮ちるかといえば、殺人といった大罪者、また姦淫、男色などの罪を犯した者だけでなく、ものをむさぼり食ったり、「生きもの」を殺したり、酒をのんだ

り、嘘をついたりしても、というから恐ろしい。

そこで源信は、「極楽に生まれるための教え」を、仏教の教えの説かれている『経』や『論』から肝心とみなす部分を集めて、座右の書にし、念仏を唱えるだけでなくその助けとなる種々の修行をせよとってこの書を世に現わしたのである。

全部で十の部分から成るが、以下、順次、その内容をほんの要約的に解説して行こう。

第一章はすでに言及したように地獄の描写から始まるが、要すれば地獄をも含めて、「天」にまで亘る「穢土」についての叙述である。

地獄にも上位、下位があり、当然、下位ほど一層穢れている。地獄の上は「餓鬼」の世界で、ここに住む者はつねに飢えと渇きに苦しめられている。「かつてみずから美食をくらいながら妻子に与えなかった夫……などがこの報いを受ける。」その上に「畜生」の世界がある。鳥類、獸類、虫類がここに住むが、人間でも「愚痴で恥知らずな〔うえに〕、在家信者の真心からの施しを受けるだけで、他のもので償えないをしなかったものが、この報いを受ける。」「この報い」とは「量り知れない多くの苦しみ」と「むごい死に方」といったものである。さらにその上に「阿修羅」の世界がある。「朝も昼も夜も苦しみが自然に迫ってくる」世界である。須弥山と呼ばれる天の山の北の巨大な海の底なぞが住み家である。「人間」界、この世界は不浄なるものであり、苦しむだけのものであり、無常なものである。一番上の「天」界とは欲界（内実は「人間」界と重なっていると解されてよいように思う）、色界、無色界の三界である。欲界とは食欲と性欲の世界、色界とはこの二つの欲を離れ

### “科学ファンタジー作家” ジョージ・ガモフ

ジョージ・ガモフ著

「完本トムキンスの冒険」

伏見康治他訳／白楊社 1990

「ガモフ全集 1～13 / 別巻・上・中・下」

伏見康治他訳／白楊社 1950～

〈とある場所での男女の会話〉

A子 「“アインシュタインの相対性理論”ってどーゆーこと？」

B男 「あ～あの白髪で髭はやした爺さんだろ。」

C男 「そうそう、この前までCMに出てた！ でも、もう死んでる筈だから、あれはソックリさんだよ。それにしてもは良く似てたなあ。」

A子 「爺さんのことじゃなくて、相対性理論のこ



た清浄な物質から成っている世界、無色界とは物質を越えた世界で、そのなかでも最高のものが「有頂天」である。以上、「地獄」から「天」までを「六道」というが、いずれにせよ、「空」なる苦しみの世界であることには違いない。色界と無色界の二世界でも、ついには天を去らなければならないという苦しみが消えないのである。しかし、「すべてのものを空と観察することすら、なお大慈悲の心をおこすさまたげとはならない。まして、苦や無常などが、〔すべてのものを救おうという〕菩薩の慈悲の願いをおこさせるのである。」

(あとは極く簡単に——)

## 第二章 浄土を願い求めること (欣求浄土)

浄土(極楽)に生まれての功德は五官の楽しみから仏にまみえて教えをきく楽しみまで語りつくせぬほど多い。浄土に至る道は、空を観察し、種々のものを正しく把え、心の平衡を保ちなどし、阿弥陀仏(無量寿仏)を供養し、念仏にいそしむことが大事である。

## 第三章 極楽〔を勧める〕証拠

浄土は十方いたる所(二百十億ともいわれる)にあるが、極楽浄土にだけ生まれたいと願うのは、多くの『経』や『論』でただひたすら阿弥陀仏を念ずることを勧めているからである。(阿弥陀仏が、人の死後、極楽浄土に生まれさせて下さる。)

## 第四章 正しく念仏を行うこと

一、どのような念じ方でもまごころをもって阿弥陀仏を礼拝すること。二、どのような念じ方でも阿弥陀仏を讃歎すること。三、作願(菩提心)を起こすこと、ということとはとりもなおさず仏になりたいと願うこと(願作仏心)である。

## 第五章 仏念の助けとなる方法

仏の「現想」(仏の具体的な身体や浄土の様子を思い浮かべること)が目当てである。そのためには華や香などを供えるのはよいことである。また、西方浄土の方に向かって決して唾を吐いたりなどはならない。

## 第六章 特定のときの念仏

これには平生のある特定のときの念仏と、臨終のときの念仏があり、その作法がここで説かれる。前者については、特別に「勇み立って」念仏する日数を決めることがいわれる。後者については、とどのつまり、「臨終の一声の念仏は百年の修業にも勝っています。」と勧めることである。

## 第七章 念仏の利益

罪を消して善を生ずることから、この身のままで仏をまのあたりに見ることが出来るまで。

## 第八章 念仏〔を勧める〕証拠

念仏は、男女・貴賤の差別なく、いつでもどこでも容易に行うことができ他に及ぶものがない。

## 第九章 浄土に生まれるための種々の修業

これは念仏以外のことで、一、個々の『経』でいっていることを明らかにし、二、とくに善行を積む様々な修業に励むこと。

## 第十章 問答による解釈

浄土と仏についてのいくつかの問答がなされるが、結局は「念仏」こそが最高のものであるといわれる。

こう紹介してくると、源信の説くところでは、窮極的には「一遍の念仏」で極楽浄土に生まれることができると解してよいようである。まこと「易しい道(易行道)」である。しかし、そのことを理解するためにこの書を読み通すことそのこと自体はたやすいことではない。それでも親切で精緻な注が付せられているので、それを導きに何とか通読できるはずである。そのように読んでも、なにほどか心に捻るものがあるのではなからうかと思う。読んでいささかでも関心を抱かれたら、法然の『一枚起靖文』(『法然』日本名僧論集、第六巻、吉川弘文堂、などに収められている)、親鸞の『歎異抄』(各文庫)、ダンテの『神曲』(聖書の知識がかなり必要)を読まれる機会をいつか作られたらいかかと願うものである。

(おの せいじ 教養部教授)

とを聞いているのよ。」

B男「だから、あ～、う～ん、知らねエ。」

A子「んもうっ！ 2度と聞かない!!」

C男「なら最初から聞かなきゃいいのに……」

A子「な～に！ じゃあC男答えてみなさい。」

C男「はい。でも僕が答えるより、ジョージ・ガモフという人の書いた『完本トムキンスの冒険』を読めば、良くわかると思います。トムキンスという平凡な銀行員が体験する不思議な出来事を通じ、我々一般の読者にもわか

り易く“相対性理論”を解説しています。ガモフについては、教養部の岡崎先生が“図書館だより”の1989年の春号(第11巻1号・通巻109号)で触れているからもう一度見て下さい。」

A子「ふ～ん。そうなの。でも今その本を読む暇はないから、あなたが読んで教えてっ!」

C男「…ハイ、ハイ。」

D子「“ハイ”は1回!」

C男「……。」



# 気楽に読もう

## <The Lemming Story>

### 「カウンセリング熊」「レミング物語」

アラン・アーキン著 今江祥智・遠藤育枝訳 出版工房原生林 1989

“カウンセリング熊”。変わっているけれど何かインパクトのあるタイトル。原題は「The Clearing」なので訳者が考えたのだろう。でもこの本には100点のタイトル。それは、本を読んでもらえばわかるはず。第1部の“レミング物語”の方は「The Lemming Condition」だから「まあこんなもんか。70点」というところか。それにしてもカウンセリング熊とはよく考えたもの。「カウンセラー熊」や「カウンセルをする熊」と言った方が自然だし、本のタイトルとしては「大熊のカウンセラーとその患者たち」、「熊のカウンセル業は大忙し」、「レミング物語2\*大熊との出会い」あたりに決めてしまいそうなのだが。やはりプロには適わない!?

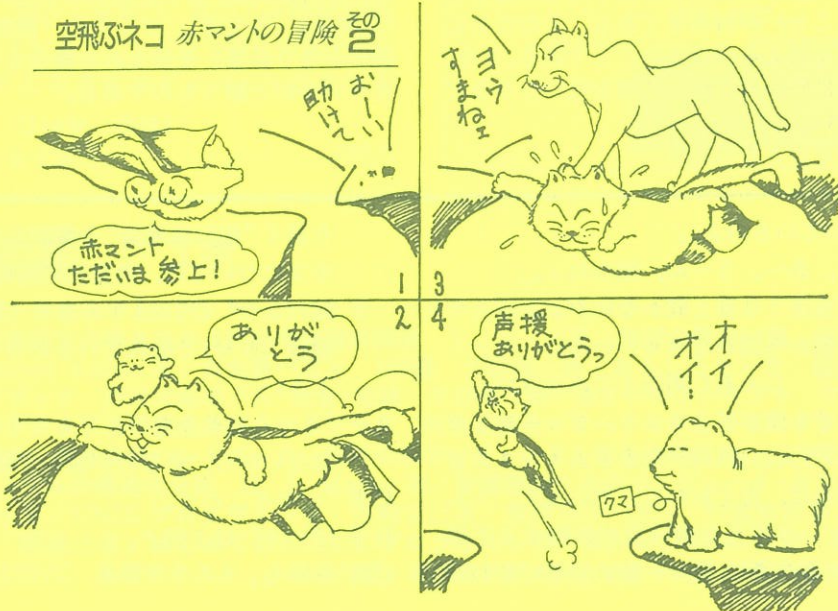
前置きが長かったけれど、この2つの物語の主人公は熊ではなくてレミングです。レミングって何だ? と言う人は、事典で調べてみる。因みに広辞苑では、『ネズミの一種。体長15cm、尾は短小。……時々大增殖をして死の大打進をする。

タビネズミ。』予備知識としてはこれでも充分。

「レミング物語」は、装丁からして子供向けの童話の趣である。登場するのはレミングとカラスのみ。しかし内容は童話というにはシビアである。結末はなんと死の大打進だ! 結局、その大打進に加われなかった1匹のレミング。そして彼が自分のアイデンティティを求め悩み、“熊”の助言を得て自分の生き方をみつける「カウンセリング熊」と続く。こちらの方にはいろいろ出てくる。熊、レミング、カラス、鴨、蛇、フクロネズミ、雌鹿、クーガ等々。それぞれがピッタリのキャラクターなのだ。君の周りにも似たような人がいるはずだよ。きっと。

そして、このレミングの苦悩に自分自身を当てはめてみる人もいると思う。実際、この物語のテーマには、おもいきり考えさせられる。このような寓話の本でも結構得るものがあったりするのだ。この本を読んで君も自分自身の生き方を考えてみてはいかが。(©ヒデオシ)

### 空飛ぶネコ 赤マントの冒険 ②





# 気楽に読もう

## 北海道 ファミリー登山

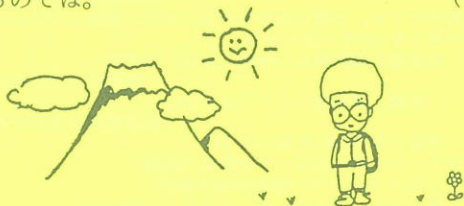
—山の楽しさを家族みんなで分かちあうために—

菅原靖彦著 北海タイムス社 1985

“山登り! どうも疲れるだけで”と大半の人は答える。本書は、そう答える人に、「歩き方・登り方」を始め、「楽しみ方」などを、山でのノー・ハウを初心者向けに写真・イラストをふんだんに交え、19章にわたり、懇切に紹介されている。

秋風が心地好く感ずる季節!! 図書館で本をむしゃぶり読むのも結構、一寸窓越しに山を眺めて、札幌岳・手稲山など札幌近郊には気軽に登れる山はたくさんある。“気分転換”山への誘いの一冊になるのでは。

(T)



## 小説 日本婦道記

山本周五郎著 新潮文庫

最初この本が出版されたのは戦時中かも知れない。しかし、時を越えて“生きる”という課題は、いつの世の何人にとっても、一番身近な問題である。物語の中に浸りながら、主人公の生き方を通して、“生きる”こと生活することを教えてくれるそんな本です。しかし、これは哲学書でも、教育指導書でもありません。現代のように、衣食住、全てに満たされている状態は、生きることに一生懸命とか緊迫感がなくてすまされてしまいます。不用意に過ごしてしまう“時”をもって大切に生きている人が居ることを知らしめる物語の本です。著者、山本周五郎の小説の世界は、全てを通してそんな世界です。世界情勢の緊迫感とは別に、個人生活のアンニュイさを求めてやまぬ今日で、ピリッとトウガラシのきいた本も読んでみましょう。残念ながら、本学図書館には、未所蔵ですが、市立図書館なら、どこでも所蔵しております。

(K)

## Newton 別冊 太陽系のすべて

—驚異の惑星ワールド—

教育社 1990

1977年に、NASAによって太陽系惑星探査機ボイジャー1、2号が、打ち上げられました。そして71億キロの飛行の末今年の2月に太陽系を離れ、地球人からのメッセージを抱き、見果てぬ宇宙へと旅立ちました。



ボイジャーからの映像は、神秘的でロマンさえ感じさせた惑星のイメージを一変しました。同じ太陽系惑星の地球とは全く異なり、生物など一切受けつけぬ冷酷な表情を見せてくれました。

チェルノブイリ事故、フロンガスによるオゾン層の破壊などで、文明って何だったのだろうと考えさせられる昨今です。空気と水そして、ほどよい太陽エネルギーの恵みのある地球が愛しく、もっと大事にしなければと考えさせられました。

(O)

## ジェントルマンズ・マガジン創刊 1731

—ジャーナリズムの誕生—

イギリス文芸出版史 出口保夫 研究社出版 昭61

本書は、イギリスの文芸ジャーナリズムの500年の歴史を概観したものである。ヨーロッパ最古の印刷術者とされるドイツ、マインツのグーテンベルグの発明から30年後の1474年に、英語で印刷されたイギリス史上最初の書物である「トロイ物語」の初刷を完成したウィリアム・カクストン(William, Caxton)の生涯から始まり、17、18cの印刷術の発展と出版ジャーナリズムの誕生まで。近代総合雑誌の起源が、1731年創刊の「ジェントルマンズ・マガジン」(本学所蔵:10月15日より図書館展示会で展示予定)にあることから、現代の雑誌と出版事情に至るまでのイギリス文芸ジャーナリズム史である。

(S)



# 書遊録

おもしろ小説は  
ダイエットの  
"敵"なのだ!!

小説やエッセイを読んでいると突然、むしようにそこに出てくる食物が食べたくてたまらなくなり買いに走ったなんて経験ありませんか？ 私なんてよくあります。

村上春樹の「羊をめぐる冒険」を読んではビールが飲みたくなり、「ダンス・ダンス・ダンス」ではドーナッツが食べたくなり、「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」ではキュウリのサンドイッチが食べたくなりました。

他にもおいしそうな食べ物がたくさん出てくる小説って多いと思いませんか？

例えば曾野綾子の「太郎物語」もその一つだし、椎名誠の「哀愁の町に霧が降るのだ」の中にもちょっと貧乏ばいけど出てくるのです。

そんな作家の食べ物に対するこだわりを集めたのが、『立原正秋食通事典』<sup>[918.28]</sup><sub>[Ta 13]</sub>です。立原正秋の世界が感じられ、なかなかおもしろいのです。

小説にもいろんな読み方があるものですネ。おいしそうな所だけ読むなんてのは、作家先生にしかられるかな？

秋の夜長、"読んでは食べ、食べては読む"なんて調子に乗っているとアツと言う間に体重が気になります。そんな方にはダイエットの本もあるヨ!!

おなかをへこます法

[498.3]  
[I 32]



鈴木その子のスーパーダイエット

[498.3]  
[Su 96]

10キロならずぐ痩せられる

[498.3]  
[G 97]

賢くやせる

[498.3]  
[sh 52]

etc.etc. がんばってね!!

## 図書館展示会のお知らせ

☆展示報告

平成2年9月1日～29日

世界の絵本展～14カ国の絵本を展示～

小池直子先生コレクションより

図書館展示きかくNo10

★展示中です。お誘い合わせの上、ぜひ、御覧ください。

平成2年10月1日～13日

北海道の植物展II～湿原、砂丘、塩沼地

温泉地の植物 etc.～

佐藤 謙先生コレクションより

図書館展示きかくNo11

平成2年10月15日～31日

ジャーナリズムのルーツを探る (仮題)

～18cヨーロッパ雑誌出版の起源～

英 ジェントルマンス・マガジン 1731～etc.

図書館展示きかくNo12

□場所：図書館1F自由閲覧室

### 世界の絵本展

14カ国の絵本を展示

18cヨーロッパ雑誌出版の起源

図書館展示きかくNo10

一階資料1F 自由閲覧室

期間：平成2年9月1日～29日

★小池 直子先生コレクション★ WHERE THE WILD THINGS ARE!



## 新着図書 — 工学

経営戦略支援システム J. F. ロッカー著/システム監査ガイドライン EDP監査人協会東京支部編/科学英語論文の書き方および科学会議の講演 V. ボーズ著/地球の歴史24講 堀田進著/覆面算パズル Steven Kahan 著/虫食算パズル 700選 大駒誠一著/おもしろセンサ 國岡昭夫著/工業英語ハンドブック 岡地栄編著/人・社会・地球 半谷高久著/住まいのコンセプト クリスチャン・ノルベルグ=シュルツ著/機械英語ハンドブック 岡地栄編著/オートマチック車のドライビング 池田英三著/電気・電子英語ハンドブック 岡地栄編著/ディジタル信号処理技術 玉井徳迪監修/リアルタイム・システムの構造化分析 D. J. Hatley 著/管理職のためのコンピュータ・セキュリティ戦略 W. E. Perry 著/UNIXプログラミング 金崎克己著/実用MS-DOS 村瀬康治著/実習RUN/FORTRAN 原達三著/はじめてのCOBOLプログラミング RUN/COBOL対応 吉野敏也著/Advanced RUN/C 基礎テキスト 小島政行著/楽園のデザイン イスラムの庭園文化 ブルクス著



# 施設探訪 — その3 — 北海道開拓記念館 北海道開拓の村

札幌市厚別区厚別町小野幌 (011) 898-0456  
 // (011) 898-2692

## 北海道開拓記念館

野幌原始林として親しまれている森林公園は、面積 2,053 ha の道立自然公園です。この西北の場所に、昭和 43 年開道 100 年を記念する事業の一つとして建設が計画され、昭和 46 年 4 月に開館したのが、この歴史博物館です。読書の秋・食欲の秋・そして爽やかな秋空の日に、ピクニック気分で北海道の歴史を訪ねてみませんか。



北海中学校  
明治42年建

## 常設展示室

全道各地から収集した歴史的資料が、7つのテーマ別に展示されています。

多くの資料の他、当時の人々の生活をわかり易く再現した人形、復元された民家、写真、図表、音声などで、北海道の開拓の歩みを訪ねることができます。

## その他の施設

収蔵陳列室・体験学習室・特別展示室  
 レストランもあるヨー

## 北海道開拓の村

開拓記念館から南へなだらかな歩道をぶらぶらと約 10 分、54 ha の敷地に明治・大正時代の、北海道の由緒正しい(?) 建造物 37 棟が復元・再現されています。

札幌駐車場の改札口(入村口)を抜けると、そこはもう、明治・大正の世界へタイムスリップ、

モダンな洋風建築として知られる北海中学校も復元されています。

## 交通機関

- ★JR北海道バス一札幌駅発「開拓の村」行き  
開拓記念館前 or 終点開拓の村前下車
- ★地下鉄東西線一新さっぽろ駅下車  
JR北海道バス「開拓の村」行き乗換え

## 開館時間・入場料

	開拓記念館	北海道開拓の村
開館時間	9:30-16:30	9:30-16:30
休館日	毎週月曜日 祝日	毎週月曜日 祝日・振替休日は翌日
入場料		
一般	250	510
高・大生	80	360
小・中生	50	200

## 教養 — 新着図書

哲学の展開 向坂寛編著/西周と欧米思想の出会い 小泉仰著/創造力開発の秘術 Zenkigen 中山正和著/日本文化総合年表 市古貞次編/聖徳太子 上, 下 梅原猛著/「明治」という国家 司馬遼太郎著/天皇とその時代 江藤淳著/昭和史 上, 下 黒羽清隆著 加藤正彦編/開拓使文書を読む 鈴江英一著/ノーベル賞 受賞者総覧 一生いたち・栄光のプロフィール— 最新版/芥川賞・直木賞 受賞者総覧 一生いたち・栄光のプロフィール— 最新版/文化勲章 受章者総覧 一生いたち・栄光のプロフィール— 最新版/地域に開かれた学園都市 新田照夫編/雪と氷のはなし 木下誠一編著/微生物学辞典 日本微生物学協会編/地球環境の危機 Douglas G. Cogan 著/機械じかけの脳をつくる スコット・ラッド著/情報処理ハンドブック 情報処理学会編/英国スタイルの花 諸泉陽子著/トレンド日米表現辞典 岩津圭介著/私という剣 菱川善夫著/TVピープル 村上春樹著/ペンギン村に陽は落ちて 高橋源一郎著/リヴァプール・キャッツの冒険 山際淳二著/村上春樹 黒古一夫著





## 「論語の読み方」

新種の  
りんごかたまり



山本七平 著



### 孔子学園への招待

論語は孔子の言行録・孔子とその弟子達との間の対話篇です。だから、だいたい“子曰く”で始まっているのね。弟子達にとっての孔子先生は、太陽や月のように乗り越えようにも越えられない存在でした。“まさか！”って思う？ 当時にも“日や月と言えるほど偉大ではあるまい”って思った人はいるのです。孔子先生、超能力者でも超人的怪物でもなかったから。ただどこへ行っても大丈夫な人—潔癖な倫理的な見方からしても大丈夫だし、最も世俗的な意味から言っても大丈夫な人でした。弟子から見ると、どう梯子をかけても追いつきようのない先生だったのね。

### 孔子先生は温・良・恭・儉・讓

温＝温和でトゲトゲしくないこと。

良＝素直で筋が通っていて性質が良い。人の長所は喜び欠点・失敗には同情的。自らに対しては厳しく、言葉が実行よりも立派であることを恥と思う。

恭＝丁寧・恭しさ。慎み深くて粗暴な言動がない。ゴマすりなんて言われても気にしない。でも恭しくしたのは君主や上役に対してだけじゃなくて村の老人や先輩又は身障者にも実に丁寧だったのよ。

儉＝きりっと引き締まって節度があること。何でもだらだらしないの。勉強・会議・お酒（！）飲んじゃダメとは言っていないわ。現在の儉約の意味もある。

讓＝謙虚・ひかえめ・人と争わない。

### 実人生を豊かにする知恵が学問・教育の目的

孔子は自分より知識のない者にも謙虚に学ぼうとする者を立派だとしていたし、孔子自身あらゆる人から学ぼうとし、日常生活の手近なことから学んで道理をきわめようとしていました。孔子にとっ

ての教育とは、立派な社会人をつくることだったから「学問」と言っても高学歴の意味ではなかったのね。「教え」は単なる「知識」でなく社会人として行動する規範だったのです。

### 戦後民主主義につきまとい続けた重大な誤解

何だかわかる？ 私は民主制って万能薬のように思ってたから、これを読んでびっくりしちゃった。聞いて♡

「民主制とはあくまで政治的制度でこの制度は人間に絶対的な規範を与えてはくれない。思想・信条・宗教の自由を保障するとは、言葉を換えれば、この制度はそれにはノー・タッチです。各人の規範は各人でご随意に……ということなのである。」だから「法はすでに起こってしまった人間の行為にしかタッチしないし、それ以前にその行為を起こさせないものは各人の持つ内的規範しかない……」



### 論語と聖書—世界で最も広く読まれた本

論語が日本に来たのは、応神天皇の御世（284年）。

百済の王仁が渡来して最初の漢籍として時の朝廷に献上しました。それからは博士家が代々伝えて、宮中でも論語が講義の中心、江戸時代の人には、もう論語ばかり読んでたんじゃなくかしら。

だから各個人も社会全体としても考え方が「論語的」になっているんですって。

読みやすく注解された論語を基にして各自の「俗解」を作り自分の規範とすること、それが論語の読み方の本道だそうです。「私の論語」を持つると便利なよ。時々どう考えどう判断したら良いのかわからなくなる時があるもの。そんな時、孔子先生は何て言ってるかな…と参考にするとちょっと安心するのであります。(K)



# ツ・カー 倶楽部

●解説 山根 对助 (教養部教授)

連句について遅ればせながら説明しておく。

(1) これは個人の文芸ではない。複数の参加者が協力して一つの作品を完成させる。このように、集団による創作は世界的にも稀有な文芸である。(2) 第一句(発句)に始まり、最終句(あげ句)に終わるが、句の数は不定。ただし、芭蕉の時代は、歌仙形式(36句)が流行した。(3) 発句は5・7・5、第二句は7・7であり、以下これを交互にくり返す。(4) 内容は、前句を受けて、さらに発展、飛躍させることが必要であり、同じような内容の句を詠み、一カ所に停滞することは最も避けなければならない。

## 連句・半歌仙(その三)

靴音たてて秋惜しむ道	秋風にとき流れゆき林沓中	魅かれる夢の天の川かな	袖口を子等に引かれる夏祭り	旗の色さへあせるメーデー	桜貝私のもよ取りあふ子	あくび一つ春眠迎え	ひま過ぎてても余すよな松の内	落葉焚きする山茶花の道	肌つつむぬくもりもあり眼を閉じる	ふと触れたるは我が指なるや	ビルの中に故郷いづこ鮭帰る	空き家の跡にほうづき残る	今はもう役にも立たぬ月明り	ネオンの海に寄する人波	空高く鳴く筒鳥の声聞きて	裾湿めらせて緑蔭の道	夕歩きアカシアの木に花残る
連哉	秀欣	優美	正人	優美	正人	連哉	一登	一登	正人	今井一登	優美	優美	連哉	正人	山崎正人	西原秀欣	日野草城



## 地球環境報告

石 弘之著 (岩波新書)

I部3年 大江 啓子

地球の危機が叫ばれるようになって久しいですが、TVや新聞で見聞きする限りでは、なかなか危機感をもてないというのが私達の実感ではないでしょうか。そんな私達に、やはり地球は今、そうとう瀬戸際に立たされているのだと、わかりやすく教えてくれるがこの本です。

環境破壊は、その大部分が発展途上国に集中していること。(だから先進国にいる私達は、よけいに環境破壊を実感できない。)発展途上国に集中しているが故に、貧しい人々はどうしても、今日の生活が大切になってしまうこと。国家自体も、先進国ほどしっかりしているわけではないことなど。今日の地球環境破壊の原因が先進国の大企業にあることを考えてみれば、私達は、自国の自然を自国の力で守り通すこともできない、と言って途上国を責めることはできないでしょう。むしろ、

貧しい国を相手に金にものをいわせているのは、私達の方です。

先進国の企業が、環境破壊の直接原因になっている以上、その企業の消費者(労働者でもありうる)私達も無関係ではないでしょう。そして、巨大な企業を有効にとり締まることができるのは、国以外にないことを考えれば、むろん国も無関係ではありません。後進国に対して多額の援助をするのもよいでしょうが、もうこれ以上後進国を貧しくさせない努力をする方が、もっと大切なのではないかと思います。

(おおえ けいこ)





# 世界の遊戯・遊戯の世界 ③

## 多数化と多極化

私は中国を訪れるたびに、玩具をもとめて小さなたばこ屋や路傍の露店をのぞき歩くのが習慣になっている。今年の夏は北京を1日も離れなかったため、その面での収穫はあまり多くなかったが、それでも鞍山製の“花牌”と上海製の“四国大戦棋”を手に入れることができた。前者はカード・ゲームで、文献上には清代乾隆年間(18世紀後半)に“碰和牌”という名ではじめて登場する。連載第1回で紹介した明代“馬吊牌”の後裔であり、麻雀牌の直接の先祖にあたる。戦前はごく単純に“紙牌”(カード)とよばれ、中国全土であまねく行なわれていた。その名が示すように、かつてはまさに中国のカードゲームを代表するものだったのである。昨年長春に住む友人から同種のカードをもらったが、それも今回の“花牌”と同様に印刷による大量生産品であった。どうやら中国東北部にはこのゲームの市場をささえる愛好者がまだ大勢いるらしい。

後者は、“陸戦棋”とよばれる2人(+審判1人)用の不確定情報・戦争ゲーム(日本の“軍人将棋”にあたる。フランスが発祥の地という)を4人用に拡大したものである。1981年に上海の街角で子供が遊んでいるのを1度見かけたが、2人用の“陸戦棋”ほど一般的ではない。軍人将棋は日本ですでに廃れてしまったが、中国ではいまでも健在で、兵科を変えた“海戦棋”や他兵科を加えた“三軍棋”などのバリエーションも生まれている。“四国

(カットは“四国大戦棋”の盤) 大谷通順

大戦棋”もそのような変種のひとつといえる。

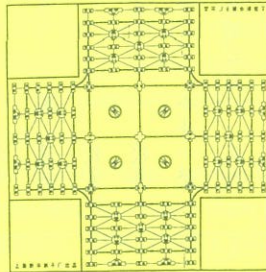
ところで“花牌”と“四国大戦棋”は、既存のゲームを発展させる典型的な(そして安直な)2種類の方法をはからずも示している。それは、「多数化」と「多極化」である。多数化の例は枚挙にいとまがないが、あえて身近な例を選べば、囲碁では三国時代(~3世紀)まで17道であった盤が、隋代(6世紀~)に現行の19道に拡大されたこと、日本の将棋では、平安期(12世紀)に“大将棋”なる13道の盤と68枚の駒を用いる拡大版が考案され、さらに元禄期(17世紀末)の記録によると、そののちに“太象戯”“天竺大将碁”“太太象戯”“摩訶太太象戯”“大象戯”のように、最大で25道の盤と354枚の駒を用いるものまで出現したことがある。

一方、多極化の例としては宋の司馬光が考案したという、碁盤上で合計119枚の駒を用いて行なう7人用の象棋(中国式将棋)“七国象戯”、

清の張晋の考案による3人用の象棋“三友棋”などを挙げることができる。また、三角形の盤を用いて現在も行なわれる3人用チェスも同じ例である。

ただしこの2種類の方法によって発展したものが、ゲームとして成功作であるとはかぎらない。実際には多くが遊戯不可能か、あるいは面白味に欠けたものとなっている。ゲームの発展史における一種の進化の袋小路といえるだろう。

(おおたに みちより 教養部講師)



### 編集後記

○寝苦し夏もアット言う間に過ぎそして中東では、もっと熱い砂嵐が……○定期試験を終わり、のんびりしている人、十月祭に向け頑張っている人、どちらですか？  
○秋・秋・静かになった図書館に足を運んで目録カードを検索、或いは開架書架の中を歩いてみませんか、きっと何かが！



### 北海学園大学附属図書館報 図書館だより

Vol.12 No.3.(通巻115号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号  
工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目  
☎(011)841-1161  
本館内線 270~275・279  
工学部内線 813・814